

## ノギラン（芒蘭）キンコウカ科ソクシラン属 \*花期＝6～8月

名前の由来＝線形の芒をイネ科植物の芒に、葉を蘭の葉に例えて、ロゼット状に広がった葉は他の植物が入ってこれない様な環境の所でより生育出来ない。北海道～九州に分布、日当たりの良い草原などに生える、葉はロゼット状に根出し。長さ8～20cmの倒披針形、花径は10～25cmその先に総状花序を出す、小さな花を数多く付け、花柄が2～4mmと短い、花は黄緑色の6弁花、全草を薬草として利用、\*花言葉＝多彩な人よく似た葉にショウジョウバカマがある、葉が細いので区分。



## サルナシ（猿梨）マタタビ科マタタビ属 \*花期＝5～7月 10月頃熟す

名前の由来＝猿が好んで食べる梨の様な美の意味。もう一つは、猿が梨と間違えて食べるから。2説とも共通しているのは猿が好んで食べるという事です。人間が食べても美味しく、酒に漬ける、ジャムにも、この実には**蛋白質分解酵素**が大量に含まれているので、疲労回復、強壮、整腸、補血、などの効用があるとされている。キウウイは中国原産のシナサルナシの改良種です。本州～九州の林内、林縁に生え、茎は初め褐色の毛が密生、後無毛となる、葉は互生で葉柄が淡紅色なるのが特徴である、葉の



## キンミズヒキ（金水引）バラ科キンミズヒキ属 \*花期＝8～10月垂

名前の由来＝紅白のミズヒキニに対して、黄色の花を金色に例え「金色の水引」キンミズヒキとなった。北海道～九種の低地に普通に見られる多年草、茎は枝分かかれして毛が多い、葉は互生、5～9の小葉で奇数羽状複葉小葉は菱状の長楕円形～倒卵形で先が尖る、**全草に薬効**がある、茎葉にタンニンが含まれる、この成分は細胞組織を引き締める作用があることが特徴、喉の痛み、口内炎、腫れ、等様々な薬効がある。\*花言葉＝感謝の気持ち若芽はお浸しや和え物などで食べられる、乾燥させて健康茶として評判が良い。



## シャガ（射干）アヤメ科アヤメ属 \*花期＝4～5月

名前の由来＝中国名のヒオウギと間違えて生薬名射干（しゃかん）が転訛してシャガになつたと言われている。中国の原産であるが日本のアイリスとして世界に知られている、古い時代に帰化したと思われる、葉は両面ともに裏面である、（葉が中肋で二つに折りたたまれいえる）染色体が三倍体です。種が出来ないのに、本州～九州まで広く分布している、人を介して広がったとしか考えられない。**※三倍体とは染色体のセット数を表し、二倍体（いわゆる父と母の2種のセット）は種が出来、三倍体は細胞分裂が上手くいかず種が出来ません（桜のソメイヨシノ・ヒガンバナも）**根茎は食べることが出来る。**根茎は薬用**としても、怪我の治療、気管支炎、リュウマチなどの薬効があるとされる。**\*花言葉＝決意・私を認めて・友人が多い・抵抗。**



## サジガクビソウ（匙雁首草）キク科ヤブタバコ属 \*花期6～10月

名前の由来＝サジは根生葉がサジの形に似ているから、ガクビとはキセルの頭の金属部分をガクビと言い、花の形がそのガクビに似ているところからガクビソウとなった。本州～沖縄まで山地の木陰などに生える多年草、根生葉はロゼット状に残り茎葉は小さくほとんど鋸歯が無い、枝先に頭花を1戸下向きに付ける、全て筒状花外側に雌花、内側に両性花、舌状花が無く下を向いているので目立たない。**\*花言葉は無い**



## 白花ニワフジ（白花庭藤）マメ科コマツナギ属 \*花期＝5～7月

名前の由来＝もともとイワフジとよばれていた、岩の多い場所に自生して、フジに似たk i s a花を咲かせているので名付けられたのが転訛してニワフジになった。ではフジとは？花が風に吹き散るのでフキチリ(吹散)が転訛した説。蔓性の茎に節があることから、フシが転訛してフジになった説、等諸説ある。山地の川沿いや岩の上に見られる、高さが60cmほどの落葉低木で葉は互生奇数羽状複葉、5～9枚の小葉からなる、普通、花色は赤紫系統が多い、シロバナは少ない。若枝は薬用としても利用されている。**\*花言葉＝恋に酔う。**

